商品売買①

三分法

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

① 三分法の仕訳をマスターしよう！

② 前T/B・後T/Bにおけるそれぞれの勘定の意味を理解しよう！

主な勘定科目

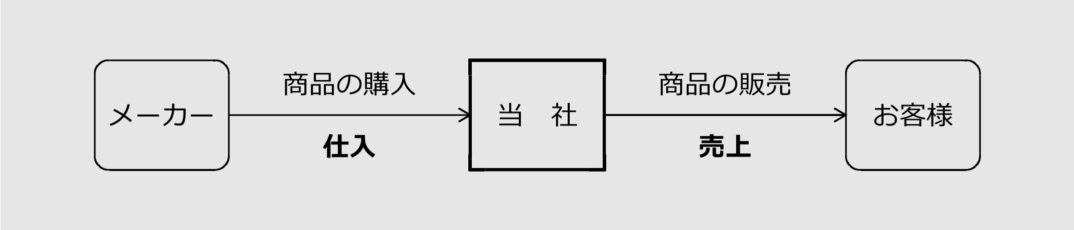
「繰越商品」勘定（資産）

「仕入」勘定（費用）

「売上」勘定（収益）

日商簿記３級では、他の会社が製造した商品を購入して、外部に販売する会社が対象となります（このような簿記を**商業簿記**といいます）。ここでは、商品の売買取引の処理方法を学習します。

なお、商品を購入することを「**仕入**」、商品を販売することを「**売上**」といいます。また、商品を仕入れた時の金額を**原価**（仕入原価）、販売した時の金額を**売価**といいます。



（１）三分法とは？

三分法とは、商品売買取引を「**繰越商品**」勘定（**資産**）、「**仕入**」勘定（**費用**）、「**売上**」勘定（**収益**）の３つの勘定を用いて仕訳する方法です。

（２）売上高

売上高とは、商品を販売したことによる**収益**であり、「**売上**」勘定（収益）で処理します。

（３）売上原価

売上原価とは、販売した商品の購入代金（これを**取得原価**といいます）をいい、**費用**の科目です。売上原価は、当期に仕入れた商品の金額ではなく、当期に売り上げた商品の取得原価です。売上原価は以下の式で算定します。

売上原価 ＝ 期首の商品在庫(期首商品棚卸高) ＋ 当期商品仕入高
－ 期末の商品在庫(期末商品棚卸高)

（４）期首商品がない場合

例題　**商品10個を@100円で仕入れ、代金1,000円は現金で支払った。そのうち、８個を@120円で販売し、代金960円は現金で受け取った。その結果、期末に商品200円（@100円、２個）が在庫として残っている。**

① 仕入時（期中取引）

商品を仕入れると資産である商品が増加しますが、この商品は販売することを目的として購入した資産であり、これを販売すると売上という収益を獲得する原因である**費用**に変わります。そこで、三分法では販売することを想定して、商品購入時に資産でなく**費用**である「**仕入**」勘定で処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
仕　　　　入	**1,000**	**現　　　　金**	**1,000**

② 売上時（期中取引）

商品を販売した時には「**売上**」勘定（**収益**）で処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
現　　　　金	**960**	**売　　　　上**	**960**

③ 決算整理前残高試算表

扱う論点に着目してもらうために、以下の決算整理前残高試算表は扱う論点に関係のある勘定科目のみを示しています。この場合、借方合計と貸方合計は一致していませんが、あくまでも一部のみを示していますので注意して下さい。

決算整理前残高試算表（一部）

仕　　　　入	1,000	売　　　　上	960

④　決算整理（売上原価の算定）

前T/Bでは「仕入」勘定（費用）の金額は当期に仕入れた10個分の1,000円となっています。しかし、そのうち２個は期末に在庫として残っており、費用とはなりません。費用とすべき金額は販売した商品の購入金額である800円（＝@100×8個）です。また、期末在庫200円（＝@100×２個）は資産としての価値がありますので、資産として計上する必要があります。

そこで、決算にあたり、期末商品を「**仕入**」勘定（**費用**）から差し引くとともに「**繰越商品**」勘定（**資産**）に計上します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
繰　越　商　品	**200**	**仕　　　　入**	**200**

⑤　決算整理後残高試算表

決算整理を行うことによって、決算整理後の「仕入」勘定（費用）は売上原価の金額である800円となります。また、「繰越商品」勘定（資産）は期末商品200円となります。

決算整理後残高試算表（一部）

繰　越　商　品	200	売　　　　上	960
仕　　　　入	800		

⑥　損益計算書・貸借対照表

損益計算書において「売上」勘定（収益）は**売上高**として、「仕入」勘定（費用）は**売上原価**として表示され、貸借対照表において「繰越商品」勘定（資産）は**商品**として表示されます。

損　益　計　算　書（一部）

売　上　原　価	800	**売　　上　　高**	960

貸　借　対　照　表（一部）

商　　　　品	200		

（５）期首商品がある場合

例題　**期首に商品200円（@100円、2個）があった。商品11個を@100円で仕入れ、代金1,100円は現金で支払った。また、10個を@120円で販売し、代金1,200円は現金で受け取った。期末に商品300円（@100円、3個）が在庫として残っている。**

①　期首残高

　後で学習しますが、資産、負債、純資産の各勘定の残高は、前期から当期に繰り越されます。ここでは「繰越商品」勘定（資産）の前期末残高200円が前期から繰り越されてきたことがわかれば良いです。なお、「繰越商品」勘定（資産）の記入は以下となります。

繰越商品

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
4	1	前　期　繰　越	200				

②　仕入時（期中取引）

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
仕　　入	**1,100**	**現　　金**	**1,100**

③　売上時（期中取引）

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
現　　金	**1,200**	**売　　上**	**1,200**

④　決算整理前残高試算表

　決算整理前残高試算表における「繰越商品」勘定（資産）200円は、期首商品の金額です。

決算整理前残高試算表（一部）

繰　越　商　品	200	売　　上	1,200
仕　　入	1,100		

⑤　決算整理（売上原価の算定）

・期首商品

売上原価を算定するために、期首商品が当期にすべて売れたと考えて、期首商品を「繰越商品」勘定（資産）から差し引くとともに「仕入」勘定（費用）に計上します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	**200**	**繰越商品**	**200**

・期末商品

売上原価を算定するために、期末商品を「仕入」勘定（費用）から差し引くとともに「繰越商品」勘定（資産）に計上します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
繰越商品	**300**	**仕入**	**300**

⑥　決算整理後残高試算表

決算整理を行うことによって、決算整理後の「仕入」勘定（費用）は売上原価の金額である1,000円となります。また、「繰越商品」勘定（資産）は期末商品300円となります。

決算整理後残高試算表（一部）

繰越商品	300	売上	1,200
仕入	1,000		

仕入：前T/B 1,100＋期首商品200－期末商品300＝1,000

⑦　損益計算書・貸借対照表

損益計算書（一部）

売上原価	1,000	売上高	1,200

貸借対照表（一部）

商品	300		

（6）まとめ　三分法

①　売上原価の算定の仕訳（決算整理仕訳）

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
仕　　　　　入	×××	**繰　越　商　品**	×××
繰　越　商　品	×××	**仕　　　　　入**	×××

Point!「仕入/繰商（しいれくりしょう）、繰商/仕入（くりしょうしいれ）」または「し・くり・くり・し」と覚えましょう！

②　前T/B・後T/Bにおける各勘定の意味

決算整理仕訳を行うので、「繰越商品」勘定と「仕入」勘定の金額が、決算整理前残高試算表（前T/B）と決算整理後残高試算表（後T/B）で異なります。

「繰越商品」勘定は前T/Bにおいては**期首商品**の金額を表しますが、後T/Bでは**期末商品**の金額を表します。また、「仕入」勘定は前T/Bにおいては当期に仕入れた商品（**当期仕入**）の金額を表しますが、後T/Bでは**売上原価**の金額を表します。

	決算整理前残高試算表	決算整理後残高試算表
繰越商品勘定	**期首商品**	**期末商品**
仕 入 勘 定	**当期仕入**	**売上原価**
売 上 勘 定	**売 上 高**	

③　ボックス図

商品売買について、以下のボックス図を書くと理解しやすいでしょう。

商　　品

期首商品	200	売上原価	1,000
当期仕入	1,100	期末商品	300